

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL <0566>22-2111
FAX <0566>25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 岡本 巧
幹事 神野 公秀
会報委員長 兵藤 文男

2009 ~ 2010年度 国際ロータリー John Kenny (ジョン・ケニー) 会長テーマ

The Future Of Rotary Is In Your Hands ロータリーの未来はあなたの手の中に
(この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。)

第2649回例会プログラム

[当年度 = 9回目; 当月 = 4週目]

2009年(平成21年) 9月28日(月)

1. 例会……………〈司会: プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(10/5)……クラブフォーラム(米山奨学委員会)
講師 米山奨学生 黄 耀儀 様
(紹介者 毛受 豊 会員)
(10/12)……休 会 (法定休日)

2. クラブフォーラム……………〈新世代委員会〉

- 13:00 卓話 「環境が子どもを育てる」
—教員生活38年間を通しての思い—
講師 刈谷市教育委員会
教育長 太田 武司 様
(紹介者 野村紀代彦 会員)
13. 謝 辞
14. 点 鐘……〈会長〉
15. 閉会宣言

13:30 16. 散 会

出席

会員総数 94名 出席免除 23名
出席義務者+免除者の内例会出席者 85名
欠席 9名 出席率 89.41%
前々回(9/7)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 会員増強推せん者バッチが野村重彦会員・加藤英二会員・神谷龍司会員・内藤正会員・鈴木文三郎会員に届いておりますので贈呈させていただきます。
- 2) 刈谷市共同募金委員会より評議員の委嘱状が届いています。
- 3) 刈谷市国際交流協会より理事の委嘱が届いています。
- 4) 刈谷地区心身障害児者を守る会より第32回バザーのお礼と報告が届いています。
- 5) 社会福祉法人 日本介助犬協会より寄附のお礼が届いています。

幹事報告

- 1) 10月のロータリーレートは、1ドル=90円に変更されました。財団へのご寄付を引き続きよろしくお願い致します。
- 2) 本日例会終了後、第4回理事会を事務局にて行いますので、関係の皆様にはご出席をお願い致します。
- 3) 過日皆様にご協力いただきました、台湾台風災害義援金、兵庫県西・北部豪雨災害義援金の報告とお礼が2760地区事務局より届きました。

会長あいさつ

岡本 巧



先日、シルバーウィークをつかって台北に2泊3日で行って来ました。29,000円のツアーを利用して、どのくらいの旅行となるか、ためしてみました。マンダリンホテルを使い、3日目は、朝8時の名古屋行きにのるという弾丸ツアーでした。でも、マンダリンホテルをシングルにしたら、1泊28,000円となります。ツアーとしては、どこで、利益があるのかと思うツアーでした。

- ・肉の美味しく食べる熟成期間と変化と
畜後の熟成期間（冷蔵温度2℃）
牛肉10日～14日間
豚肉4日～6日間
鶏肉1日～2日間
- ・食肉の変化
熟成期間（美味しく食べる）を変化させるには、酸素温度・低温管理・遮光対策です。

（巨人が優勝してしまいました。中日は完敗）
酒の飲み過ぎです。（乾杯？）

第4回理事会

- I 会長挨拶 〈会長〉
- II 議題
 1. 10・11月のプログラム（案）について
〈クラブ奉仕委員長〉
〈プログラム委員長〉
 2. ガバナー公式訪問について 〈幹事〉
 3. 次年度指名委員について 〈幹事〉
 4. 刈谷万燈祭の「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」参加に係る協賛について
〈社会奉仕委員長〉
 5. ライラセミナー参加について 〈新世代委員長〉
 6. ロータリークラブ杯小学5年生サッカー大会協賛について
〈新世代委員長〉
 7. ポール・ハリス・フェローのメダル有料について
〈ロータリー財団委員長〉
 8. 次年度地区委員会委員推薦について
〈次年度幹事〉
 9. 出席規定適用免除の申請について 〈幹事〉
 10. その他

クラブフォーラム

太田 武司 様



私は、1948年、昭和23年6月10日生まれ、61才となりました。縁ありまして、現在刈谷市教育長の職を拝命しております。

昭和46年に富士松中に赴任し、38年間の教職生活をつづけて参りました。

その教員生活で、大変、影響をうけましたのは5年間つとめました、岡崎にあります愛知教育大附属の養護学校の養護教諭時代のことです。子供は、大人の「言葉の力」「目の力」だけでは、絶対に動きません。子供が、おもしろをした時、下着を洗って乾かして、子供を帰宅させます。ある時に生乾きで子供を返した時、用務員のまさ子さんから「先生それではだめだ」と言われました。家庭科室のアイロンで乾かして、子供にはかせましたところ、にこっと笑って、子供が私に親近感をもってもらい、それ以後非常に子供とのコミュニケーションがうまくいったことを経験しております。

また、「子供をしかるときは1回勝負」何回も言えば慣れてしまうので効果はなくなるというのも母親からの私への貴重な教訓の1つでした。

また、どの子供も同じように生まれ、同じように育ちます。東大に行く子供と、そうでない子供との差は、その獲得スピードの差にあります。物事の理解をし獲得していくスピードのちがいが、その差を生んでしまいます。現在、子供が変わったと、よく巷間いわれますが、子供が変わったのは、「育つ過程を私たちが変えてしまった」からです。

たとえば、言葉づかい「うぜい」「かったるい」よくない言葉づかいを正しく指導しても、家庭の中にその言葉があふれていなければいたしかたありません。今でも、「あたりまえのことがあたりまえにできる子供に育てて欲しい」と願っています。そのためにも、家庭環境、地域環境を子供にとって豊かなものとなるよう、ご協力いただきたいと思っております。

最後に、子供は生育環境次第で何とでも変わってしまうということを皆様に申し上げて、今回の卓話とさせていただきます。

『都市対抗野球を考える』

萩田 繁 会員



【都市対抗野球の歴史】

都市対抗野球大会は、毎年夏に行われる社会人野球のトーナメントであり、1927年（昭和2年）に第1回大会が行われ、1941年（昭和16年）の中止、1943-1945（昭和18-20年）には第二次世界大戦による大会中断もあった。今年は記念すべき第80回大会が行われ、Honda（埼玉県狭山市）が決勝でトヨタ自動車（愛知県豊田市）を破り、二回目の優勝を飾ったのはまだ記憶に新しいところである。開催球場も最初は明治神宮球場だったが、1938年以降後楽園スタジアム、1988年から東京ドームに移る。各地の社会人・クラブチームが繰り広げる熱戦、独自の制度である「補強制度」、郷土色豊かな応援合戦などに根強いファンが多い。大会名には「都市対抗」とあるが、企業を母体としないクラブチームの本選出場がほとんどないことなら、実体は「企業対抗野球」に近い。また、全国大会の開催時期も当初7月下旬-8月上旬の夏休みの初めに開催されプロ野球のオールスターゲームに対抗して「真夏の球宴」という異名が知られていたが、近年は夏季オリンピックやプロ野球の試合日程等の都合から8月下旬-9月上旬に変更されて今日に至る。

【大会の概要】

毎日新聞社が第1回大会（1927年）から主催を続けており、第20回大会（1949年）には日本社会人野球協会（現・日本野球連盟）が発足し、毎日新聞社との共催となった。

本大会システムはトーナメント方式で行われ、地区予選で用いられている敗者復活戦は行われていない。試合形式やルールは原則として公認野球規則にのっとり行われ、第49回大会（1978年）から、コールドゲーム制度が導入された。7回または8回終了時に10点以上の点差があった場合、以後のイニングは行わない。（ただし、決勝戦は非適用）また、プロ野球のパ・リーグと同様に指名打者制度が用いられている。（第60回大会〈1989年〉以降）加えて、2003年からタイブレーク制度が定められており、導入当初は①試合開始から4時間以上経過かつ②延長13回以上という要件あり。この条件を満たしてなお同点の場合、新しいイニングに入るときには、一死満塁の状態から攻撃を開始する。この場合、あらかじめ置かれた打者が生還したとき、打点および得点は記録されるが、投手には自責点は記録されず、また、タイブレークの1イニングは記録上2/3回とされる。今年の第80回大会からは、試合時間に関係なく、延長11回からタイブレークを導入すると改正した。（ただし、準決勝以後は従前と同様。）バットは金属バットを使用していた時期（第50回大会（1979年）から第72回大会（2001年）があったが、それ以外は木製バットを用いている。

地区予選は原則16地区で行われ、32チームで本選を戦う。ちなみに東海地区（愛知・静岡・岐阜・三重）の本選枠は6チーム。また、都市対抗野球の独特の制度として補強選手制度があり、各地区予選で敗退したチームから合計5人まで選手をレンタルできる制度である。

表彰については大会独特の表現が目立つ。「黒獅子旗」は優勝チームに授与される優勝旗であり、準優勝チームには「白獅子旗」、3位チームには「黄獅子旗」が授与される。「橋戸賞」は最優秀選手賞にあたり、優勝チームから1人選出される。「久慈賞」は敢闘賞にあたり、準優勝チームから1人選出される。「若獅子賞」は新人賞にあたり、大会で素晴らしい活躍をした新人選手が選出される。「小野賞」は大会で素晴らしい活躍をした選手、監督、チームが選出される。

【明治安田生命野球部について】

1958年（昭和33年）、明治生命硬式野球部として創部。1982年（昭和57年）の第53回都市対抗野球に初出場を果たし、黄獅子旗を獲得した。（ベスト4）同時に小野賞を明治生命チームとして受賞した。実はこの時の補強選手としては中西投手（東京・リッカー）が目覚ましい活躍をし、その後阪神タイガースに入団、抑えの投手の切り札として活躍し、特に1985年（昭和60年）の阪神タイガースの日本一に貢献したのは周知の事実である。2004年（平成16年）会社統合に伴い、「明治安田生命硬式野球部」に改名し、2006年（平成18年）24年ぶり2回目の都市対抗出場を果たし、翌2007年（平成19年）も2年連続3回目の出場果たす。

私が在籍していたのは1985年（昭和60年）-1990年（平成2年）の6年間であり、残念ながら都市対抗出場は果たせず。ポジションは投手だったが、当時金属バットの高反発化競争の最中であり、よく打たれた記憶が残っている。バットの芯を外して根元でつまらせても、先でも金属バットは折れず猛威を振るっていた記憶が鮮明にある。当時の試合はほとんどがラグビースコアとなり正に投手受難時代であった。加えて、楽しみだったバッティングについても1989年（平成1年）以降、指名打者制度が導入され、例えるなら“投げるマシーン”となったことは非常に残念だった。ただし、当社の野球部の誇りは野球部だから仕事ができないではなく、仕事をきっちりこなした後に野球をするという、言わば『文武両道』の精神に根づいていることである。私の当時明治生命に入社した動機は正にこれ！入社して気がついたことは、やはり仕事をしてお金をもらうこと、加えて野球をすることは本当に大変なことだったが、その精神は今も十分に活かされていると思う。当時も今も当社の野球部の予算は微小であったため、最近では後援会を立ち上げて役員員の皆様からの後援会費に頼っているのが現状である。しかし、会社へ余り負担をかけることなく、本来の社会人野球の精神を持ち続けてきたことが、現在も当社野球部が存続していると思われる。昨今の経済情勢および雇用情勢の厳しき折、真の意味で社会人野球の意義が問われている時代に突入したのだと思う。